

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41 - 1	美濃橋修復事業	担当課	建設部土木課
			作成者	市原義則
施策体系	行政分野	⑤景観・自然	施策分類	1景観
	総合計画上の施策名	65	美濃市らしい景観まちづくりの推進	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	竣工（大正5年）から約100年となる美濃橋を文化財としての価値を保ちつつ安心して渡れる自歩道橋として修復します。
------------	--

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性（当初計画時）	美濃橋は、国の重要文化財であり長年市民に親しまれ、清流長良川と合わせた景観的な価値や観光名所としての価値も高く、美濃市を代表する建造物です。文化的な価値を損なうことなく自歩道橋としての活用を図るため、美濃橋修復活用検討委員会での有識者の意見を踏まえて修復工事を行う必要があります。
-------------------	--

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円）	【A】	489,800,000	事業実施期間	H15～H28
	事業概要	委員謝礼 旅費 調査工事・耐震診断業務 実施設計業務 修復工事			

(3) 事務事業実施にかかるコスト 単位：円

区分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
①事業の実施内容	委員謝礼 旅費 会場借上げ料 基本構造調査試験業務	旅費 基本設計業務委託	委員謝礼 旅費 調査工事・耐震診断業務	委員謝礼 旅費 調査工事・実施設計業務
②直接事業費	17,542,688	14,025,388	28,295,211	53,688,000
③人件費	8,400,000	1,200,000	2,400,000	2,640,000
④合計コスト ②+③	25,942,688	15,225,388	30,695,211	56,328,000
前年度比		58.7%	201.6%	183.5%
財源内訳	国・県支出金		13,472,000	25,750,000
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	25,942,688	15,225,388	17,223,211
⑤進捗率(%)				
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】(%)	3.6%	6.4%	12.2%	23.2%
⑦特記事項	事業費増加理由：H26年度は残りの調査工事を実施し、その結果を踏まえ実施設計を作成するため前年比1.8倍となっています。			

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化（当初計画時における環境との対比）	今まで	これまで舗板や吊線の交換など部分的な修繕を行ってきましたが全体的な修繕は行っていません。竣工から約100年が経過し部材の劣化が進行しているため通行規制（20人以下）をしています。
	今後	重要文化財に指定され観光的な価値も増すことが予想されます。美濃市まるごと川の駅構想やサイクルシティ構想の拠点施設となる施設であり大規模な修繕により通常時の通行規制の解除や観光施設としての魅力アップを図ります。
(2) 現状と課題の認識	美濃橋強度調査により通行規制（20人以下）を実施しています。しかし、規制の看板が立っているだけで実際に規制の有効性があるのか疑問です。調査工事、耐震診断によりケーブルや鋼材の腐食の程度、主塔の状況が判明しつつあり、どのように修復するか検討を進めています。	

5. 課題への対応策

美濃橋の文化財としての価値を保ちつつ安心して渡れる自歩道橋としての活用を図るため美濃橋修復活用検討委員会を立ち上げ専門家の助言・指導を受けながら修復方法を検討した上で文化庁の補助金を受け修復工事を行っていきます。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性 所属長氏名 辻 隆男

長年市民に親しまれ、清流長良川と合わせた景観的な価値や観光名所としての価値も高く、今後も美濃市の文化資産、観光資源として重要な建造物です。美濃橋の文化財としての価値を保ちつつ安心して渡れる自歩道橋としての活用を図るため美濃橋修復活用検討委員会による助言・指導を受け修復工事を早急に行う必要があります。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（内部管理事務）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-2	親水公園維持管理事業	担当課	土木課
			作成者	上田 香
施策体系	行政分野	⑤景観・自然	施策分類	3憩いの場
	総合計画上の施策名	70 憩いと安らぎのある水辺空間の整備		
	施策名(評価単位)	(26) 土木関連事業の推進		

2. 事務事業の目的	公園の管理を行うことにより、公園の適正な維持管理を図ります。
------------	--------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(平成25年度)	公園内の清掃業務 ほたるの里公園トイレの清掃業務 バーベキュー施設の維持管理 3基 東屋の維持管理 2棟

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費	1,238,830	1,235,676	1,233,559	1,237,000
② 人件費	1,280,000	1,280,000	1,280,000	960,000
③ 合計コスト ①+②	2,518,830	2,515,676	2,513,559	2,197,000
前年度比		99.9%	99.9%	87.4%
財源内訳	国・県支出金			
	市債			
	その他特定財源			
	一般財源	2,518,830	2,515,676	2,513,559
④ 活動一単位当たりコスト	11,770.2	11,755.5	11,745.6	10,266.4
前年度比		99.9%	99.9%	87.4%
⑤ コストに関する増減理由				

(3) 活動指標	指標名	公園・トイレ清掃実施回数			単位:	回
	指標説明					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
	実績値	214	214	214	214	

4. 評価・課題	委託料は定額であり、公園の電気代・トイレの消耗品で事業費が変わってきます。
----------	---------------------------------------

5. 具体的な改善内容	改善時期	平成27年3月
定期的な実施ではなく、公園の利用状況により実施日を決めるようにします。		

6. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	辻 隆男
農村環境整備を推進します。 現在、地元自治会へ委託し管理を行なっています。 今後も、経費削減を推進していきます。		
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41 - 3	橋梁長寿命化修繕事業	担当課	土木課
			作成者	古田晃資
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	2道路
	総合計画上の施策名	74	市内全域における安全・安心な道路整備	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	橋梁の安全・安心を確保するために老朽化した橋梁の計画的な点検及び修繕により維持管理していきます。
------------	--

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	橋梁の長寿命化修繕計画に基づき、修繕及び架け替えに係る費用の縮減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保する必要があります。
-----------------------	---

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】	463,061,000	事業実施期間	各年度計画
	事業概要	管理する橋梁の老朽化に対応するため、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへの転換を図るために、橋梁の長寿命化修繕計画に基づき修繕を行っていきます。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト 単位：円

区 分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
①事業の実施内容		蕨生大橋補修設計委託 蕨生大橋一部修繕工事	蕨生大橋補修工事	下渡橋修繕工事 越美南線1号橋補修設計委託 道路ストック点検（橋梁点検）
②直接事業費		4,898,250	44,534,700	96,000,000
③人件費		880,000	880,000	1,440,000
④合計コスト ②+③	0	5,778,250	45,414,700	97,440,000
前年度比			786.0%	214.6%
財源内訳	国・県支出金			24,494,000
	市債			18,000,000
	その他特定財源			
	一般財源	0	5,778,250	2,920,700
⑤進捗率(%)				
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)	0.0%	1.1%	10.7%	31.4%

⑦特記事項	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、平成25年度は蕨生大橋、平成26年度は下渡橋の修繕、跨線橋越美南線1号橋の架け替えに伴う設計、道路ストック点検（橋梁点検）を実施及び予定しているため事業費が増加しています。
-------	---

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	対症治療型管理を止むを得ず行ってきました。
	今後	点検により橋梁の状態を把握し、その結果から健全度を算出し、蓄積データを基に管理する橋梁の将来を予測し、計画的な維持管理を行う予防保全型にしていきます。

(2) 現状と課題の認識	修繕に係る財源の確保
--------------	------------

5. 課題への対応策

財源の確保が難しいからと、予算の先送りを行ってしまうと対症治療型となってしまう、修繕に係る費用の増大の恐れがあることから、計画的に財源を確保し予防保全型事業を行うことにより、管理費用の縮減（費用のピーク抑制）を行うことができます。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性 所属長氏名 辻 隆男

ドライバーが安全で安心して橋梁を通行できるようにすることが道路管理者の使命です。修繕及び架け替えに係る費用の縮減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保するため、今後も橋梁の長寿命化修繕計画に基づき事業を推進していきます。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41 - 4	サイクルツアー推進事業	担当課	建設部土木課
			作成者	市原義則
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	2道路
	総合計画上の施策名	74	市内全域における安全・安心な道路整備	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	生活環境の向上と新たな観光資源を創出するスローライフなまち「サイクルシティ美濃」を目指して、自転車で安全に走行できる道路を整備します。
------------	---

3. 事務事業の実績	(1) 事業の必要性（当初計画時）	生活の中に自転車を取り入れた子供から高齢者まですべての人が自由に安全に移動できるコ・モビリティ社会の構築に必要なため。
------------	-------------------	---

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】	400,000,000	事業実施期間	H20～H32
	事業概要	路肩カラー舗装 防護柵設置 関連市道舗装工事 サイクルステーション設置 サイクルツアー駐車場設置 歩車道境界ブロック設置 案内看板設置 休憩所設置		

(3) 事務事業実施にかかるコスト				
単位：円				
区分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
①事業の実施内容	サイクルステーション 外側線整備 駐輪場設置 関連市道舗装工事 歩車道境界ブロック 国道、県道要望活動	路肩カラー舗装 防護柵設置 関連市道舗装工事	サイクルロード検討委員会準備 関連市道防護柵・舗装工事	案内看板設置 サイクルステーション設置工事 関連市道舗装工事
②直接事業費	47,162,850	9,235,800	9,681,000	8,000,000
③人件費	6,620,000	2,400,000	2,400,000	2,640,000
④合計コスト ②+③	53,782,850	11,635,800	12,081,000	10,640,000
前年度比		21.6%	103.8%	88.1%
財源内訳	国・県支出金			5,500,000
	市債			4,000,000
	その他特定財源			
	一般財源	53,782,850	11,635,800	2,581,000
⑤進捗率(%)				
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】(%)	11.8%	14.1%	16.5%	18.5%
⑦特記事項				

4. 事務事業の評価		
(1) 事業を取り巻く環境の変化（当初計画時における環境との対比）	今まで	交通手段として利用されるのは自動車が主流。歩道を自転車が通行するのは当たり前と考えられていました。
	今後	交通手段として利用されるのは自動車が主流ですが、自転車が走りやすい道路整備やツアーオプジャパン、ヒルクライム開催により自転車による観光客が増加していきます。自転車と歩行者との事故の増加により歩道での自転車走行についてのあり方が検討されていくと予想されます。
(2) 現状と課題の認識	法律上「自転車は車両」であり、原則として車道を走らねばなりません。しかし、自動車の通行量が多い車道は危険性が高くなっています。歩道を自転車と歩行者が安全に通行するためには道幅3m以上が必要とされています。また、サイクルコースは市道のほか、国道、県道も混在しているため、関係機関との調整が必要です。	

5. 課題への対応策	
今後の道路整備に当たっては、地域の交通状況を見極めながら、歩道幅3.5メートルを念頭において整備すると共に、案内看板などの設置により利用しやすい環境整備を図っていきます。 整備に当たって協力を得なければならない国道、県道などの関係機関には、市の掲げるサイクルシティ構想に理解が得られるよう、整備の必要性を粘り強く要望していきます。	

6. 事業の総合評価及び今後の方向性		所属長氏名	辻 隆男
スローライフの街づくりの一環として、自転車と歩行者が安全に走行できる道路を整備することが必要です。今後の道路整備に当たっては歩道幅3.5メートルを基本に整備していきます。法律上3メートル未満でも歩行者の通行量が極めて少ない、あるいは車道の交通量が多く自転車が車道を走ると危険という場合は歩道を自転車が通行することも認められていることから、市街地以外の郡部では地域の交通状況を予測しながら無駄の無い整備が必要です。また、整備に当たって協力を得なければならない国道、県道などの関係機関には、市の掲げるサイクルシティ構想に理解が得られるよう継続して要望していく必要があります。			
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)	

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41 - 5	市道等維持管理事業	担当課	建設部土木課
			作成者	古田晃資
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	2道路
	総合計画上の施策名	77	市道管理の充実	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	市道の建設及び維持管理を行い、居住環境を向上させることを目的としています。
------------	---------------------------------------

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 (当初計画時)	道路の建設及び維持管理を行い、安全で快適な生活が送れるように整備します。
-----------------------	--------------------------------------

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】		事業実施期間	各年度計画
	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の補修・除草・街路樹の剪定 ・市道側溝の新設・補修 ・市道の拡幅・改良 ・市道の舗装 		

(3) 事務事業実施にかかるコスト 単位：円

区分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の穴ぼこ・段差補修 ・路肩の除草 ・街路樹の剪定 ・側溝の新設・修繕 ・市道の新設・拡幅 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の穴ぼこ・段差補修 ・路肩の除草 ・街路樹の剪定 ・側溝の新設・修繕 ・市道の新設・拡幅 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の穴ぼこ・段差補修 ・路肩の除草 ・街路樹の剪定 ・側溝の新設・修繕 ・市道の新設・拡幅 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の穴ぼこ・段差補修 ・路肩の除草 ・街路樹の剪定 ・側溝の新設・修繕 ・市道の新設・拡幅 	
②直接事業費	101,737,632	114,628,500	175,694,528	147,500,000	
③人件費	18,000,000	10,160,000	12,000,000	19,680,000	
④合計コスト ②+③	119,737,632	124,788,500	187,694,528	167,180,000	
前年度比		104.2%	150.4%	89.1%	
財源内訳	国・県支出金	41,494,000	15,632,000	17,683,000	43,175,000
	市債	14,800,000		5,400,000	23,600,000
	その他特定財源				
	一般財源	63,443,632	109,156,500	164,611,528	100,405,000
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】(%)					
⑦特記事項	毎年度修繕量が異なるため事業費が変動します。 ※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 (当初計画時における環境との対比)	今まで	<ul style="list-style-type: none"> ・地元要望、通報、パトロールの実施により、修繕箇所を発見し補修してきました。 ・対症治療的管理を止むを得ず行ってきました。
	今後	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの道路が、整備後数十年が経ち、修繕の先送りから、老朽化施設が目立つようになってくると考えられます。また、幹線道路の舗装修繕などが、交付金事業の対象となってきます。

(2) 現状と課題の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕費の確保のため、交付金事業を有効に利用する必要があります。 ・道路管理者として実施すべき事業と、地元が要望する事業を調整する必要があります。 ・道路施設の点検を実施することにより、道路施設の現状と今後の修繕費を予測する必要があります。
--------------	--

5. 課題への対応策

・修繕工事等、特に緊急性のあるものについては、予算の有無は関係ないため、新規事業費を抑えてでも財源の確保をする必要があります。
 ・舗装補修については、今後予測される修繕費に対し、長期的な修繕計画を立てることにより、予算を確保し、維持管理費用を縮減（費用ピークの抑制）する必要があります。
 ・修繕費の増大に伴い、交付金事業で修繕できるものと、市費でしかできないものを仕分けする必要があります。
 ・地元要望による道路改良事業は、事業化前に地権者の同意をとるなど、効率的な事業の推進が必要です。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性 所属長氏名 辻隆男

快適な道路空間を創造するこの事業は、ドライバーはもちろん市民にとっても重要です。市民が安全で安心して生活できる快適な道路整備を行う必要がありますが、近年、老朽化により側溝・舗装の破損や路肩の崩れ等多く発生しています。パトロールの強化や地元自治会からの通報により迅速な対応をしていきます。現在、経費削減のため地元生活道路の草刈は、自治会へ委託しています。今後もこれを推進していきます。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（内部管理事務）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-6	道普請事業	担当課	土木課
			作成者	石原大輝
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	2道路
	総合計画上の施策名	77 市道管理の充実		
	施策名（評価単位）	(26) 土木関連事業の推進		

2. 事務事業の目的	道路や水路などの修理・草刈等の市民協働活動を支援し、道路・河川・農業施設の維持修繕費を縮減するとともに住民自らの手で生活環境を良好に保全することにより地域の自治力を高めます。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・道路 12件 防草シート設置、側溝浚渫、道路路肩除草、歩車道分離ブロック修繕 ・河川 5件 河川法面除草、河川敷竹伐採、防草シート設置 ・農業 9件 用水路法面除草、用水路目地込、用水路浚渫、農道穴埋め

(2) 事務事業実施にかかるコスト					(単位:円)
区分	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
① 直接事業費	783,815	799,060	633,513	1,800,000	
② 人件費	2,080,000	2,080,000	1,680,000	1,760,000	
③ 合計コスト ①+②	2,863,815	2,879,060	2,313,513	3,560,000	
前年度比		100.5%	80.4%	153.9%	
財源内訳	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源				
	一般財源	2,863,815	2,879,060	2,313,513	3,560,000
④ 活動一単位当たりコスト	114,552.6	221,466.2	88,981.3	118,666.7	
前年度比		193.3%	40.2%	133.4%	
⑤ コストに関する増減理由	地域の実情及び施設の維持管理、修繕等を、地域の実情に応じ、申請により支援する事業であり、年度において常に変動します。				

(3) 活動指標	指標名	道普請申請の箇所数				単位:	箇所
	指標説明	地域住民による管理施設の維持管理ならび修繕管理等の道普請申請数					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	25	13	26	30		

4. 評価・課題	自治会長が1年任期の場合が多く、道普請事業が十分認識されていないため、活用してもらえないケースがあります。
----------	---

5. 具体的な改善内容	改善時期	平成27年3月
4月に各自治会長へ道普請制度の案内と申請書を送付し周知します。毎年提出してもらう自治会要望の中から自治会で実施できそうなものをピックアップし、道普請事業で実施してもらえないか打診していきます。		

6. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	辻 隆男
4月に各自治会長へ制度について説明しているため、道普請事業の活用が増加しています。道路・河川・農業施設の維持修繕費の縮減を目指し、道普請事業に多くの地域住民の参加を呼びかけ、引続きこの事業の充実を図ります。		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（内部管理事務）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-7	道路台帳整備事業	担当課	土木課
			作成者	川嶋秀彦
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	2道路
	総合計画上の施策名	77	市道管理の充実	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	市道の適正な維持管理及び道路台帳の精度を上げるため、道路台帳補正業務により起終点位置や幅員等の修正、未登記処理を実施します。
------------	--

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（平成25年度）	道路認定、道路改良、側溝改良、舗装工により生じた平成25年度変更した道路の形状変更や数量等の変更について、現況平面図、道路台帳図、道路台帳調書等の更新補正を行いました。また、未登記箇所公図修正業務を行いました。

(2) 事務事業実施にかかるコスト					（単位：円）
区分		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込
① 直接事業費		4,466,281	5,848,959	4,777,500	7,300,000
② 人件費		3,920,000	3,920,000	3,920,000	3,280,000
③ 合計コスト ①+②		8,386,281	9,768,959	8,697,500	10,580,000
前年度比			116.5%	89.0%	121.6%
財源内訳	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源				
	一般財源	8,386,281	9,768,959	8,697,500	10,580,000
④ 活動一単位当たりコスト		8,386,281.0	9,768,959.0	8,697,500.0	10,580,000.0
前年度比			116.5%	89.0%	121.6%
⑤ コストに関する増減理由		道路台帳の補正は、業務量により、毎年変動します。			

(3) 活動指標	指標名	道路台帳補正業務と未登記処理委託業務				単位：	式
	指標説明	市道の延長や幅員の変更に伴い、道路台帳の補正と未登記箇所の処理を行います。					
		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
	実績値	1	1	1	1		

4. 評価・課題	
当年度工事が完了してから、道路台帳補正業務を行う完了日が3月末であるため、工期に余裕が無く十分な精査期間が確保できません。	

5. 具体的な改善内容	改善時期	平成27年3月
地方交付税との関連から年度末までを含んだ台帳整備をする必要があり、工事完了見込を勘案しながらあらかじめ設計書等での補正を準備し工事完了に合わせ反映させていきます。		

6. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	辻 隆男
道路の正確な維持管理を行うため、必要不可欠であり、継続して実施していかなければなりません。		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要

事務事業名	41 - 8	排水路改良事業	担当課	土木課
			作成者	須田隆之
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	3防災基盤
	総合計画上の施策名	78	防災力を高める基盤整備の実施	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的

生活環境を改善させるため、市内の排水路整備を実施します。

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	未着手箇所や老朽化した排水路を整備することにより、降雨等による洪水に対して、安全安心に暮らせるよう治水環境を整備します。
-----------------------	--

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円）	【A】	事業実施期間	各年度計画
	事業概要	排水路パトロール及び自治会から提出される要望書から、改良の必要性の高い箇所を選定し、排水路改良を実施します。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト		単位：円			
区 分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容	排水路改良 N=1箇所	排水路改良 N=5箇所	排水路改良 N=5箇所	排水路改良 N=2箇所	
②直接事業費	2,778,300	5,989,200	3,727,500	2,000,000	
③人件費	4,080,000	4,080,000	4,400,000	2,880,000	
④合計コスト ②+③	6,858,300	10,069,200	8,127,500	4,880,000	
前年度比		146.8%	80.7%	60.0%	
財源 内訳	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源				
	一般財源	6,858,300	10,069,200	8,127,500	4,880,000
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)					
⑦特記事項	1箇所当たりの工事費に変動があるため前年度比の増減が大きくなります。 ※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	特になし
	今後	地球温暖化が原因と思われる局地的集中豪雨が増加傾向にあります。

(2) 現状と課題の認識	財源の確保が難しく、特に悪い箇所の補修で対応するしかなく、対処療法的な対応になっています。また、異常気象の影響や保水力の低下により排水路の能力を超える場合があります。
--------------	---

5. 課題への対応策

財源を確保し予防的な整備を行っていく必要があります。改修時には今までと同様の水路で支障が無いかが検討する必要があります。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

所属長氏名 辻 隆男

市民が、快適な生活環境を維持するために、排水路の整備を行う必要があります。今後も、未整備区間・老朽化した水路を優先に工事を推進していく必要があります。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-9	河川改良事業	担当課	土木課
			作成者	佐藤英男
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	3防災基盤
	総合計画上の施策名	78	防災力を高める基盤整備の実施	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	防災力を高め生活環境を向上させるため、河川の改良等を実施します。
------------	----------------------------------

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	河川を健全な状態に保てるよう未着手箇所や老朽化した施設を改良整備し、安全・安心に暮らせよう治水環境を整備します。
-----------------------	--

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円）	【A】	事業実施期間	各年度計画
	事業概要	河川パトロール及び自治会から提出される要望書から、改良の必要性の高い箇所を選定し、改良・修繕を行います。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト					単位：円	
区分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込		
①事業の実施内容	河川修繕工事 N=6箇所 ぎふリバープレイヤー 長良川堤防除草 志摩樋門操作	河川修繕工事 N=6箇所 ぎふリバープレイヤー 長良川堤防除草 志摩樋門操作	河川修繕工事 N=3箇所 ぎふリバープレイヤー 長良川堤防除草 志摩樋門操作	河川修繕工事 N=3箇所 河川改良工事 N=2箇所 長良川堤防除草 志摩樋門操作		
②直接事業費	3,966,627	4,288,026	5,378,760	5,259,000		
③人件費	3,840,000	3,840,000	3,000,000	3,280,000		
④合計コスト ②+③	7,806,627	8,128,026	8,378,760	8,539,000		
前年度比			104.1%	103.1%		
	財源内訳	国・県支出金				
		市債				
		その他特定財源				
一般財源		7,806,627	8,128,026	8,378,760	8,539,000	
⑤進捗率(%)						
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】(%)						
⑦特記事項	※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額					

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	特になし
	今後	地球温暖化が原因と思われる局地的集中豪雨が増加傾向にあります。

(2) 現状と課題の認識	財源の確保が困難です。局地的集中豪雨により想定以上の増水が発生した場合、対応できない可能性があります。
--------------	---

5. 課題への対応策

関係機関・地域住民が一体となり河川の状況を把握します。河川断面の調査などにより優先順位を付け整備する必要があります。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

所属長氏名 辻 隆男

市民が、安全で安心して快適な生活ができるよう環境整備を進めるため、中小河川の整備を行う必要があります。今後も、未整備区間・断面不足の河川の整備を行い、災害に強いまちづくりに努めていきます。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要

事務事業名	41-10	防災・減災事業	担当課	土木課
			作成者	後藤幸泰
施策体系	行政分野	⑥基盤整備	施策分類	3防災基盤
	総合計画上の施策名	78	防災力を高める基盤整備の実施	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的

自然災害の被害防止や軽減に向け、基盤整備防災対策を実施します。

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	土砂災害警戒区域等における円滑な警戒避難を確保する上で必要な事項を市民に周知するための土砂災害ハザードマップを作成するとともに、土砂災害を防止するための対策事業を実施し災害に対する備えを充実します。
-----------------------	---

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】	8,000,000	事業実施期間	H24～H26
	事業概要	美濃市土砂災害ハザードマップ 24年度：土砂災害警戒区域等指定説明会を各自治会で実施 25年度：土砂災害ハザードマップの作成説明会及び各家庭に配布 26年度：避難場所の検討、急傾斜地崩壊対策事業県要望準備		

(3) 事務事業実施にかかるコスト					単位：円
区 分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容		土砂災害警戒区域等指定説明会 14地区	土砂災害ハザードマップ作成説明会 11地区 各家庭配布 6800部	避難場所等の検討 急傾斜地崩壊対策事業県要望準備	
②直接事業費		0	6,602,400	1,000,000	
③人件費		1,160,000	1,160,000	2,000,000	
④合計コスト ②+③	0	1,160,000	7,762,400	3,000,000	
財源内訳	前年度比		669.2%	38.6%	
	国・県支出金		3,300,000		
	市債				
	その他特定財源				
一般財源	0	1,160,000	4,462,400	3,000,000	
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)	0.0%	0.0%	82.5%	95.0%	
⑦特記事項	平成25年度に土砂災害ハザードマップ作成が終了したため、平成26年度は事業費が減となりました。				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	特になし
	今後	地球温暖化が原因と思われる局地的集中豪雨が増加傾向にあります。

(2) 現状と課題の認識	局地的集中豪雨により、河川の氾濫や土砂崩れ等により、避難場所への移動ができない可能性があります。土砂災害特別警戒区域は市内に300箇所以上ありすべてに対策を講じるためには莫大な費用が必要となります。
--------------	---

5. 課題への対応策

避難場所に移動ができないような緊急事態が生じた場合、民間の施設を一時的な避難場所とする必要があります。国、県の補助対象事業となりうる場所で住民や所有者の理解の得られる場所から順次、補助対象事業採択に向け要望していきます。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

所属長氏名 辻 隆男

ハザードマップが住民に十分周知されるよう広報等での啓発や、防災訓練時での活用を推進し、住民自ら危機管理ができるよう意識改革していく必要があります。また、災害時にできるだけ安全で速やかに避難できる避難経路の確保に努める必要があります。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要

事務事業名	41 - 11	交通安全施設等整備事業	担当課	土木課
			作成者	須田隆之
施策体系	行政分野	⑦交通・情報	施策分類	1 交通安全
	総合計画上の施策名	88	交通安全施設整備と啓発活動の推進	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的

歩道・自転車道・防護柵・区画線・道路照明灯等の適切な維持管理を行い、歩行者や自転車利用者及び交通弱者の安全を確保します。

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 (当初計画時)	自転車、歩行者及び通行車両の安全確保と事故防止のため、交通安全施設整備が必要です。
-----------------------	---

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】		事業実施期間	各年度計画
	事業概要	市道のパトロール及び各地区より提出される要望書から必要性の高い箇所を選定し、交通安全施設（道路照明灯・交通安全施設・防護柵）整備を実施しています。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト		単位：円			
区 分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容	交通安全施設整備の維持管理・防護柵等の設置・道路照明灯設置・交通安全施設整備事業	交通安全施設整備の維持管理・防護柵等の設置・道路照明灯設置・交通安全施設整備事業	交通安全施設整備の維持管理・防護柵等の設置・道路照明灯設置・交通安全施設整備事業	交通安全施設整備の維持管理・防護柵等の設置・道路照明灯設置・交通安全施設整備事業	
②直接事業費	11,306,758	17,060,684	27,088,556	43,393,000	
③人件費	1,600,000	1,600,000	1,920,000	3,600,000	
④合計コスト ②+③	12,906,758	18,660,684	29,008,556	46,993,000	
財源内訳	前年度比		144.6%	155.5%	162.0%
	国・県支出金				17,050
	市債				12,500
	その他特定財源				
一般財源	12,906,758	18,660,684	29,008,556	46,963,450	
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)					
⑦特記事項	事業費増加理由：平成24年に通学路緊急合同点検を実施しており、改善箇所を計画的に実施するため増加しています。※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 (当初計画時における環境との対比)	今まで	特になし
	今後	市内の交通安全施設には、老朽化した施設があり、改修・改善する箇所が多発することが懸念されます。

(2) 現状と課題の認識	道路交通の安全を確保するため、必要な交通安全施設整備に配慮する必要があります。
--------------	---

5. 課題への対応策

道路の安全・安心を確保するため、交通安全パトロール回数を増やし、適切な施設管理対応を行います。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

所属長氏名 辻 隆男

市民が安全で安心して生活できる快適な道路整備を行う必要があります。ドライバー・歩行者・自転車が安全に走行するために、ガードレール・転落防護柵・区画線及び交差点内の照明灯設置、カラー化を行います。今後も、既設施設の点検はもちろん、カーブ・交差点等危険箇所を優先に、工事を推進していきます。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-12	土地改良事業	担当課	土木課
			作成者	佐藤英男
施策体系	行政分野	⑧産業・観光	施策分類	1農林水産業
	総合計画上の施策名	96	農業生産基盤整備	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	農業生産活動を向上させるため、用水の整備を実施します。
------------	-----------------------------

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	老朽化した用水路を整備することにより、農業生産活動の維持・向上を図ります。
-----------------------	---------------------------------------

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】		事業実施期間	各年度計画
	事業概要	改良の必要性の高い用水にて、用水改良を実施します。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト					単位：円
区 分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容		用水改良 N=1箇所	用水改良 N=1箇所	農業施設の状況確認、点検、地元調整	
②直接事業費		3,486,000	4,000,000	0	
③人件費		1,440,000	1,440,000	880,000	
④合計コスト ②+③	0	4,926,000	5,440,000	880,000	
財源内訳	前年度比		110.4%	16.2%	
	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源				
一般財源	0	4,926,000	5,440,000	880,000	
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)					
⑦特記事項	H26年度は事業予定なし ※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	特になし
	今後	農業従事者の減少により農業団体の弱体化が進み市内農業が衰退傾向にあります。

(2) 現状と課題の認識	農業後継者が少なくなり農業団体が弱体化しているため地元分担金の必要な農業整備事業は、実施困難な場合があります。
--------------	---

5. 課題への対応策

農業後継者の育成や、農業団体への支援を進めながら、農業施設整備を行います。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

所属長氏名 辻 隆男

農業者が、十分な農業生産活動ができるように、用排水路の整備を行う必要があります。今後も、要望に応じ未整備区間・老朽化した水路を優先に工事を推進していきます。

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（建設事業）

（評価対象：平成 25 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	41-13	土地改良維持管理事業	担当課	土木課
			作成者	佐藤英男
施策体系	行政分野	⑧産業・観光	施策分類	1農林水産業
	総合計画上の施策名	96	農業生産基盤整備	
	施策名（評価単位）	(26)	土木関連事業の推進	

2. 事務事業の目的	農業施設の修繕により、農業生産基盤の充実及び維持管理を図ります。
------------	----------------------------------

3. 事務事業の実績

(1) 事業の必要性 （当初計画時）	農業施設（農道・用排水路・頭首工・揚水機場・パイプライン等）の健全な状態を確保するため必要です。
-----------------------	--

(2) 事業の全体計画	予定全体事業費（単位：円） 【A】		事業実施期間	各年度計画
	事業概要	農業施設の機能を確保するため農業団体や自治会からの要望を受け必要性の高い箇所から順に改修・修繕を行います。		

(3) 事務事業実施にかかるコスト					単位：円
区分	～平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度見込	
①事業の実施内容	修繕箇所 N=10箇所	修繕箇所 N=4箇所	修繕箇所 N=16箇所	修繕箇所 N=10箇所	
②直接事業費	7,074,771	1,433,025	10,574,421	1,700,000	
③人件費	2,800,000	2,800,000	1,600,000	1,120,000	
④合計コスト ②+③	9,874,771	4,233,025	12,174,421	2,820,000	
前年度比 財源内訳		42.9%	287.6%	23.2%	
	国・県支出金				
	市債				
	その他特定財源				
一般財源	9,874,771	4,233,025	12,174,421	2,820,000	
⑤進捗率(%)					
⑥進捗率：金額Σ②÷【A】 (%)					
⑦特記事項	1箇所当たりの工事費が違うため前年度比の増減が大きくなります。 ※各年度事業のため「～平成23年度実績」は、平成23年度のみの実績額				

4. 事務事業の評価

(1) 事業を取り巻く環境の変化 （当初計画時における環境との対比）	今まで	特になし
	今後	農業従事者の減少により農業団体の弱体化が進み市内農業が衰退傾向にあります。

(2) 現状と課題の認識	農業後継者が少なくなり農業団体が弱体化しているため地元分担金の必要な農業整備事業は、実施困難な場合があります。
--------------	---

5. 課題への対応策

本事業で実施すべきものと、地元農業団体（農業者）が、住民協働型（道普請）で実施したほうがよいものがあり、その都度地元と協議していきます。

6. 事業の総合評価及び今後の方向性

農業生産基盤を整備・推進し農村環境の改善を図ります。
今後も、要望に応じ用水路の浚渫・農道・用水路・パイプライン・揚水機等の修繕を推進していきます。

所属長氏名	辻 隆男
今後の方向性	1. 継続 (1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)